

平成 26 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

新しい時代を担う「英知」、自分も他者も大切にできる豊かな「人間性」、自由な発想で新しいことに取り組んでいこうとする「創造性」、社会に積極的に参画し貢献していきける「社会性」を身につけた人間を育成する。そのため、教職員が協働して、一人ひとりの生徒にきめ細かな指導に当たり、自分の生き方を自分の意志と責任で切り拓く力を育む学校づくりをめざす。

2 中期的目標

1 確かな学力の育成

(1) 新学習指導要領を踏まえ、「わかる授業、充実した授業」をめざした授業改善に取り組む。

ア 「授業力向上委員会」を活用し、公開授業や研究授業、授業アンケート及びS-T分析法等を効果的に活用した授業改善に組織的に取り組み、生徒の活動を重視した授業やICTを活用した授業について研究をすすめる。

※生徒による授業評価における加重平均を3.0以上とする。

イ エリアや自由選択科目の選択をとおして、進路実現に対応できる学力を身につけさせ、多様な学習ができるように、教育課程の一層の改善を図る。

※普通科総合選択制アンケートにおける生徒のエリア学習満足度（平成25年度67.0%）を毎年2～3%引き上げ、平成28年度には75%にする。

2 夢と志を持つ生徒の育成に向けた指導計画の確立

(1) 「総合的な学習の時間」とLHR等を有機的に連携させ、志学、キャリア教育、人権教育を総合的に行うことのできる指導計画を確立する。

ア キャリア教育の推進に向け、3年間を見通した計画への改善に取り組む。また、地域の人材・施設を積極的に活用する。

※普通科総合選択制アンケートにおける生徒のエリアガイダンス満足度（平成25年度72.8%）を毎年1～2%引き上げ、平成28年度には75%にする。

※卒業時の進路未定者率（平成26年3月末2.8%）を維持する。

※卒業時の就職内定率（平成26年3月末100%）を維持する。

3 安全安心で魅力ある学校づくり

(1) 生徒の規範意識を醸成するとともに、個々の生徒への支援体制を強化する。

ア 生徒が自らの行動を律することのできる人材となるよう、基本的生活習慣の確立と規範意識の醸成に努める。また、保護者や関係機関との連携を強化するとともに、校内の教育相談体制をより一層充実し、必要な生徒に適切な支援・指導を行うことができる体制を確立する。

※生徒向け学校教育自己診断の教育相談に関する項目における満足度（平成25年度62.8%）を毎年3～4%引き上げ、平成28年度には70%にする。

(2) 特別活動や生徒会活動を通じて生徒の自己有用感を醸成するとともに、集団や学校への帰属意識を高める。

ア 行事や生徒会活動、部活動等を通じて、集団の中で人と調和しながら活動できる能力を育成する。

※部活動加入率（平成25年度53.0%）を毎年3～4%引き上げ、平成28年度には65%にする。

※保護者向け学校教育自己診断における学校に対する満足度（平成25年度77.9%）を毎年2～3%引き上げ、平成28年度には85%にする。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成26年11月実施分]	学校協議会からの意見
<p>【教育課程・学習指導等】</p> <ul style="list-style-type: none"> 「進路希望に応じて選べるエリアや選択科目が多い」と答えた生徒は86.1%（前年比5.3%増：以下同じ）と「進路実現のために必要な学力がついている」と答えた生徒は、61.8%（1.3%増）と平成25年度に引き続いて向上した。 <p>【生徒指導等】</p> <ul style="list-style-type: none"> 「学校の規則をきっちり守っている」と答えた生徒は、91.0%（3.5%増）と規律を守ることへの意識は高くなったが、保護者の生徒指導への満足度が67.6%（4.1%減）と後退している。生徒が納得できる毅然とした指導について、今後とも保護者の理解と連携の充実を図っていききたい。 生徒の「教職員は悩みや相談に親身に応じてくれる」は、63.6%（0.8%増）、保護者の「学校は、適切に相談に応じてくれる」69.3%（1.7%増）とともに向上した。今後も教育相談に関する教職員研修の充実に加え、生徒が教育相談を有効に活用できるよう、啓発に努めることが必要である。 <p>【広報活動等】</p> <ul style="list-style-type: none"> 保護者の「学校は、意思疎通を積極的に図っている」は、66.9%（4.5%減）、家庭への配付文書は80.0%（1.0%増）の保護者が確認しているが、さらに確実な伝達方法の検討が必要である。学校行事に参加した保護者は、67.6%（2.6%減）であった。さらに開かれた学校づくりに取り組んでいきたい。 <p>【学校運営等】</p> <ul style="list-style-type: none"> 教職員の「校長は、自らの教育理念や学校運営についての考えを明らかにしている」47.5%（44.2%減）、「学校運営に教職員の意見が反映されている」50.0%（36.2%増）と低く、「職員会議が、情報交換と課題検討の場として有効に機能している」52.5%（25.2%減）、「各分掌や各学年間の連携が円滑に行われ、有機的に機能している」も52.5%（8.6%減）と低下しており、学校運営について教職員間の意思統一を進める必要がある。 	<p>第1回（平成26年7月1日）</p> <ul style="list-style-type: none"> 緑風冠を選んだ理由として「落ち着いた環境で安心できる」「7限授業などの学習への取り組み」「希望する部活動がある」の選択者が過去3年に比べて増加している。今までは地の利を活かすことができているかもしれないが、学区撤廃があり、生徒がどこに魅力を感じて志望しているのかを考えていく必要がある。 授業の様子を見てみると、生徒が授業をしっかりと聞くことができている。先生とのキャッチボールができている。それが安心につながっていると思う。そういった点を緑風冠のアピールポイント・長所として売っていけばいい。 授業に関しては、どんなに準備をしても生徒に聞いてもらえないとダメだと思う。ICT機器をどの教室にも充実させてほしい。 アンケートを見ていて、大東市からきている生徒が26%と低いことにびっくりした。もう少し地元の人が「ここはいいよ！」と言ってくれるような学校になってほしい。 <p>第2回（平成26年11月21日）</p> <ul style="list-style-type: none"> 昨年からは緑風冠高校の生徒を見ていて、上手にやっているのだから、変化しなくてもいいかもしれないな、と感じるが、学校が変化しなくとも、社会は変化する。周りが変化するからには、学校も変わり続けなければならないだろう。 中学生は高校選びで、地理的な近さというのを重視している。学区撤廃とは言え、遠くへ通うのは少ないようだ。兄弟の友達が通っているという情報も中学生には大きい。 中学生は学校を肌で感じて、あこがれを持つ。しかし実際に見学に行けたならば良いが、最近の生徒はそこまでしないので、緑風冠カップのような機会をもっと増やせたらよいのでは。 中学生が説明会以外で高校を感じるために、高校生との交流があれば、有意義なのではないか。 高校側から、いろいろと提供してもらっており、そこで意欲的になるようなバイタリティが足りていないという中学側の課題もある。 <p>第3回（平成27年1月30日）</p> <p>平成27年度 学校経営計画及び学校評価（案）について</p> <ul style="list-style-type: none"> 年末に大学入試の具体的な改革に関する答申があったが、アクティブラーニングは大学の基礎教育でもキーワードになっている。 学校アンケート集計結果の生徒の所で、先生によって指導の方法が違うとあったが、大きな枠組みの中でここだけは外さない、方針を全体の教員が共有

府立緑風冠高等学校

	<p>し、かつ「それは違う」と発言できる環境が大事なのではないかと。 ・なにより学校長が私はいこう行くのだと意見を出し、そこに教員たちが団結すれば良い。生徒も教員が一致していればそれが伝わるはず。 ・生徒の様子を見ていても非常に落ちついていると思う。やはり教員は授業が核だと思うので、授業がしっかりしていれば生徒指導は必要ない、というくらいで、授業での目的を明確にした上で、先生がお互い高め合う授業をつくる文化で、先生方が連携していけば生徒さんの資質向上につながるのでは。</p>
--	--

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 確かな学力の育成	<p>(1) 新学習指導要領を踏まえ、「わかる授業、充実した授業」をめざした授業改善に取り組む。</p> <p>ア 「授業力向上委員会」の活用</p> <p>イ 公開授業や研究授業、授業アンケート及びS-T分析法を効果的に活用した授業改善の推進</p> <p>ウ 生徒の活動を重視した授業やICTを活用した授業改善の推進</p> <p>エ 進路実現に対応できる学力を身につけさせ、多様な学習ができるように、教育課程の一層の改善を図る。</p>	<p>ア・指導教諭を中心に、教務部担当、教科代表による「授業力向上委員会」を中心に、年2回の校内授業研究週間（6月、11月）で公開授業を実施。授業アンケート（6月、11月）を実施し、授業改善を推進する。とりわけ、経験の少ない教員の授業力向上に努める。</p> <p>イ・「生徒の活動を重視した授業」をテーマに全教科全科目で、生徒の学習活動を取り入れた授業を実施する。 ・ICTを活用した研究授業を実施。「授業力向上委員会」で課題把握と成果検証を行い、改善点について全教員で情報共有する。</p> <p>ウ・きめ細やかな進路に対応できるように、「人文・文化」エリアの開設科目、授業内容及びガイダンスの改善を行う。</p>	<p>ア・生徒による授業評価における加重平均を3.0以上（平成25年度2.98）とする。 ・年2回公開授業及び全体研究協議の実施。</p> <p>イ・全教科全科目で、生徒の学習活動を取り入れた授業を実施する。</p> <p>ウ・普通科総合選択制アンケートにおけるエリア学習満足度（平成25年度67.0%）を70%にする。</p>	<p>ア・「授業力向上委員会」を年5回開催して、授業アンケートの結果を分析し、来年度に向けての改善点を明確にできた。次年度も、校内研修等を活用しながら授業内容の研究・改善に取り組みたい。（○）</p> <p>・生徒による授業評価を全クラスで実施。加重平均は6月3.07、11月3.08であった。（○）</p> <p>・公開授業及び全体研修会を2回実施し、授業者に対する助言や改善点を協議し、授業改善に資することができた。（○）</p> <p>イ・「生徒の活動を重視した授業」をテーマに全教科で個々の教員が取り組み、その内容をWebページで紹介した。（○）</p> <p>・ICTの機材を新たに購入したが、活用した授業を実施していると回答した教員は、50.0%に留まった。今後も学校全体で取り組みたい。（△）</p> <p>ウ・普通科総合選択制アンケートにおける生徒のエリア学習満足度は、70.3%に向上した。（○）</p>
2 夢と志を持つ生徒の育成に向けた指導計画の確立	<p>(1) 「総合的な学習の時間」とLHR等を有機的に連携させ、志学、キャリア教育、人権教育を総合的に行うことのできる指導計画を確立する。</p> <p>ア 実践的キャリア教育・職業教育支援事業の成果を活用して、3年間を見通した計画への改善に取り組む。</p>	<p>ア・学年による実践を踏まえながら、学校全体で年間を通じて成果検証と改善点の検討を行い、スキームをブラッシュアップする。 ・1年生の「仕事しらべ学習」を継続するとともに、進路適性検査を実施する。 ・2年生の「出前授業」、オープンキャンパスへの参加及び課題提出、「看護師一日体験」への参加を継続するとともに、専修学校の職業教育の活用を図る。 ・3年生の進路別講座を開講し、とくに就職希望者には「就職ゼミ」を設け、職業意識の確立とコミュニケーション能力の向上に力点をおいた指導を継続する。</p>	<p>ア・普通科総合選択制アンケートにおける生徒のエリアガイダンス満足度（平成25年度72.8%）を75%にする。 ・卒業時の進路未定者率（平成26年3月末2.8%）を維持する。 ・卒業時の就職内定率（平成26年3月末100%）を維持する。</p>	<p>ア・普通科総合選択制アンケートにおける生徒のエリアガイダンス満足度は、75.7%に向上した。さらに改善に努めたい。（○）</p> <p>・卒業時の進路未定者は、平成27年3月末2.2%であった。キャリア教育との連携をさらに強めるとともに、進路実現に向けた授業内容の検討を進めていきたい。（○）</p> <p>・卒業時の就職内定率は、1次の段階で88.5%（4.1増）と向上し、平成26年3月末100%であった。今後とも、進路実現のための指導を継続するとともに、生徒の適性と企業とのマッチングを強めていきたい。（○）</p>

府立緑風冠高等学校

<p style="text-align: center;">3 安全安心で魅力ある学校づくり</p>	<p>(1) 生徒の規範意識を醸成するとともに、個々の生徒への支援体制を強化する。</p> <p>ア 生徒が遅刻しない学校づくり</p> <p>イ 交通安全や薬物乱用防止に向けた規範意識の醸成</p> <p>ウ 個に応じた支援体制のさらなる充実と外部人材の活用</p> <p>エ 教育相談体制の充実</p> <p>(2) 特別活動等を通じた生徒の自己有用感の醸成と、集団への帰属意識の向上</p> <p>オ 部活動の活性化に向けた取り組みの推進</p> <p>カ 生徒の学校行事への参加意欲向上に向けた取り組みの推進</p>	<p>ア・教員による登校時の校門立番を継続する。</p> <p>イ・交通安全講習、薬物乱用防止教室を継続して実施する。</p> <p>・教員による下校時の自転車マナー指導を実施し、「ルールからマナーへ」を合言葉に、さらに生徒の規範意識を高める。</p> <p>ウ・要支援生徒について、支援教育コーディネーター、生徒相談委員会、養護教諭、担任等が十分に情報共有をして、個別指導計画をつくり、スクールカウンセラー、外部機関と連携しながら支援する。養護教諭の担任会への参画を継続し、中退率のさらなる減少に努める。</p> <p>エ・教育相談に関する教職員研修を年1回以上行う。生徒が教育相談を有効に活用できるよう、ポスターを作成し、教室に掲示する。</p> <p>オ・部活動の様子を、学校 Web ページ等で積極的に発信し、あらゆる機会をとらえて部活動を顕彰する。</p> <p>・中学生向け学校説明会において、体験入部を実施する。</p> <p>・多くの部活動で中学校との交流を行う。</p> <p>カ・体育大会の応援、文化祭のクラス演劇、生徒会のボランティア活動等をさらに活性化する。</p> <p>・生徒保健委員の部活動安全講習会、保健研究発表大会でのプレゼンテーションを継続する。</p>	<p>ア・遅刻総数を前年度より10%減らす。</p> <p>イ・近隣からの自転車マナーに関する苦情件数を前年度より10%減らす。</p> <p>ウ・要支援生徒について、個別の支援計画を策定し、必要な支援を行う。</p> <p>エ・生徒向け学校教育自己診断の教育相談に関する項目における満足度(平成25年度62.8%)を65%にする。</p> <p>オ・部活動加入率(平成25年度53.0%)を60%にする。</p> <p>・中学生向け学校説明会参加者を前年度より10%増加させる。</p> <p>カ・保護者向け学校教育自己診断における学校に対する満足度(平成25年度77.9%)を80%にする。</p>	<p>ア・遅刻総数は前年度比54.5%減。次年度も粘り強い指導を継続する。(◎)</p> <p>イ・近隣からの自転車マナーに関する苦情件数は今年度は6件(昨年度は3件)と増加した。次年度も粘り強い指導を継続する。(△)</p> <p>ウ・毎週生徒相談委員会を開催し、支援が必要な生徒のサポートを実施。(○)</p> <p>エ・生徒向け学校教育自己診断の教育相談に関する項目における満足度63.6%(0.8%増)と向上した。生徒自身が教育相談を積極的に有効活用できるよう、さらに啓発に努めたい。(○)</p> <p>オ・部活動加入率は59.7%(0.8%増)。次年度についても現在の取組みを継続する。(○)</p> <p>・演劇部が近畿大会で最優秀賞を受け、全国大会に出場することになった。</p> <p>・中学生向け学校説明会参加者は、前年度より増加した。次年度もさらなる充実をめざして取り組みたい。(○)</p> <p>カ・保護者向け学校教育自己診断における学校に対する満足度79.6%であった。さらに開かれた学校づくりに取り組んでいきたい。(○)</p>
---	--	---	---	---